

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1290300035		
法人名	(株)ヘルシーサービス		
事業所名	グループホーム ガーデンコート稲毛園生 (1階)		
所在地	千葉県千葉市稲毛区園生町815-1		
自己評価作成日	平成27年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成27年2月27日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>お客様個々を把握し、信頼関係を築く積極的な施設を目指す。                  お客様、ご家族様と共に協力をし、共に歩む施設を目指す。                  お客様、ご家族を生活の面から支援できる事業所を目指す。                  自立支援の観点から、すぐにお手伝いをするのではなく、「見守り」を優先する施設を目指す。                  地域との繋がりを積極的に持つために、外部へ向けた社会参加を行う。</p>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>「自立支援」や「利用者に寄り添う」を事業所全体のテーマとし、利用者の心のケアも大切にしながら支援を進めていくことができるように、毎月の拠点会議やケースカンファレンスを通して職員間で共有して実践につなげている。今年度は利用者の活動性の向上及び生活の幅を広げるために外出活動増やし、近隣のお店を活用し買い物に出かけたり寿司屋への外食、イチゴ狩り等の外出行事も定期的に行い、利用者の活動性を高めている。また、職員の技術の向上を高めるためにOJTの実施や事業所内研修も定例化し、今後は現場レベルで職員を指導できる力を高めていけるように努めている。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員研修、日々の申し送りなどで、地域密着型サービスの意義を職員全員に伝えています。また、自立支援、残存能力の活用、お客様に寄り添う介護を目指して取り組んでいます。	法人の社是、経営理念や心得のほか、事業所として「自立支援に寄り添う」をテーマとして、利用者の心のケアも大切にしながら支援を進めていくことができるように、毎月の拠点会議やケースカンファレンスを通して職員間で共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ほぼ毎日散歩に出かけています。施設に必要な消耗品や、お客様が必要な日用品をスタッフと一緒に買い物に行き、社旗参加をしています。地域の催しごと等にも積極的に参加しています。	地域の夏祭りや地域包括主催のメモリーウォークへの参加、傾聴ボランティア、大正琴の演奏や小学生の「まち体験」受け入れとその発表会の見学、また、近隣のお店や喫茶店に出かけるなどして地域住民と触れ合いを通して、地域との交流の機会を積極的に働きかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に民生委員の方等に参加を促し、地域交流を積極的に行っています。また、今年度より千葉市の相談員制度を利用させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	お客様の総体的な現状の報告、個々のケース報告やイベント等の報告を行い、抱える問題点を提起し、構成員の皆様のご意見、ご要望をお伺いしています。ご提案いただいた事項については検討をし、改善していくようにしています。	地域包括センター、民生委員、家族代表などの出席を受け2か月に一度定期的に開催している。会議では、利用者の状況、行事活動など運営報告のほか、研修状況等についても報告しており、会議での話し合いやそこでの意見をサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	行政の判断が必要な件については高齢施設課、介護保険課に問い合わせをし、日々のケアでの質問などは担当のあんしんケアセンターへ問い合わせをするようにしております。勝手な解釈をしない様に心がけています。	市や区担当者とは、日頃から運営に関する疑問点等を相談し、事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	高齢者虐待、身体拘束に関する権利擁護研修を修了した者が、施設内研修により研修を行っております。また日々のケアの中では、行なってはいけない行為だということを、職員全体に周知しています。	内部研修として「身体拘束・虐待」をテーマとして実施し、身体拘束廃止に対する意識を高め、ケアに取り組んでいる。玄関は安全のためオートロック式を採用しているが、日々の支援の中で、身体拘束の事例の発生はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い身体拘束、権利擁護に関して勉強しています。また、申し送り等で周知しています。		

グループホームガーデンコート稲毛園生(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度については、ご入居前にその適用を受けられてご入居されている方がいらっしゃいます。今後、そのようなケースが発生した場合に即時対応ができるよう体制を整えます。あんしんケアセンターとも連携をとっています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭だけではなく、必ず書面でその内容等をお伝えし、ご質問を受ける機会を設け、ご理解とご納得をいただいております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	概ね2カ月に一回運営推進介護を行い、各方面からの意見をいただいています。それ以外にも各計画作成担当者からご家族様へは綿密に連絡を取るようにし、ご意見をいただく体制を整えています。	家族の意見、要望を聴取については、面会時やイベント来訪時、ケアプラン説明時には直接声をかけ、意向や要望を伺う機会を設け、必要に応じて運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	カンファレンスを定期的実施、および日々の申し送りにて直接意見を聴取。また、現場社員が相談役となり、パートスタッフの意見を聴取するようしております。	雇用契約更新時に行う個人面談のほか、日頃から管理者が現場職員へ声をかけたり、朝夕の申し送りやフロア会議の際に意見や提案を聞く機会を設けている。それらの意見や要望は、必要に応じて日々の取り組みに反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な面談を行うことにより職員個人個人の意向を把握するようし、目標設定を共に行うようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社後に導入研修を行い認知症と介護についての理念を学ぶ機会を持つようにしています。またその後もOJTを行いつつ、全体研修に加え、個別に介護技術研修を行い、職員の知識、技術向上に努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社員は本社研修等、交流する機会が設けられています。パートスタッフに関しては、国家試験の勉強会等の研修を提供しています。		

グループホームガーデンコート稲毛園生(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご利用開始前に、ご本人様が安心できる環境で暮らすことができるようご本人様、ご家族様へ面談をし、直接ご意見を頂戴しております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	しっかりとアセスメントを行い、ご家族、お客様のニーズを聞きだし、関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	介護相談の窓口として様々な相談を受けるとともに、当施設でのサービスを希望される段階ではないと思われる場合は、あんしんケアセンターなどにご相談をし、的確な引き継ぎを行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフとお客様とが一緒に洗濯をしたり、調理をしたり、食器洗いをしたりと日常的な生活を営んでおります。介護するされるということではなく、お互いに感謝の気持ちを持ち続けることのできる関係を築くよう努力しております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居されても、ご本人様にとってご家族様の協力は必要不可欠なものであることを説明し、ご家族様が気軽に施設にお越しになれるよう、日々の様子をお伝えしたり、行事へのご参加をお願いしたりしております。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人様が希望された場合は、お電話を使いご連絡を取っていただくようにしております。気軽に親類・知人などが来訪できる雰囲気を作ることによって外部との交流を図りやすくする様に努めております。	利用者との日常的な会話から馴染みの場所などの情報を得て、過去の生活習慣を踏まえて喫茶店に通ったり、家族の協力を得ながら、お墓参りや買い物に家族と一緒に出かけ等、関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の申し送りで、お客様個々の心身状況情報を共有するばかりではなく、ユニット内のお客様の人間関係を把握できるよう、日々の会話の内容などを報告するように指導しております。		

グループホームガーデンコート稲毛園生(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とするお客様やご家族様には、ケアマネジャーより、定期的に電話にて連絡させて頂き、近況などをお伺いしております。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の意向を優先し、不可能な場合はご家族にご意見を頂戴し、ご本人様にとって、一番良いと思われるケアプランを作成し、ご承諾をいただき、実際のケアに活用しております。	利用者からの意向については、日頃の会話や表情から一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努め、また家族等の協力を仰ぎその把握に努めている。困難な場合は、家族に相談の上、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	モニタリングシートやサマリー等を作成し、スタッフと情報共有をしています。また、アセスメントシートなども確認するように促し、情報の積極的な収集を促しております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	施設職員全員で、日々の生活の中の小さな変化に気付けるように関係を深めています。また、日々の申し送りや、管理者、主任の定期的な現場への訪問で、左記項目の把握をするようにしております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族、ご利用者様、提携医療、ケアマネジャー、管理者、スタッフなどの意見を取り入れ、介護計画に反映して実際のケア展開を行っております。	アセスメントにおいて利用者の現状及び課題を抽出し、担当者会議、ケアカンファレンスにおいて家族、職員から意見を収集し、ケアプランを立案している。ケアプランの状況は毎月モニタリングを行い、目標の達成度を確認している。	今後に向けてはケアプラン作成の際には、主治医や看護師の意見も取り入れ、他職種連携でケアプランを作成できると良いであろう。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々、個人日誌、業務日誌の記録をし、内容を事務員がチェックしております。朝夕の申し送り時に、管理職、ケアマネジャーが立会い、スタッフとの情報共有を行っており、介護計画の見直しが必要な情報は見落とさないようにしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々状況は変化していきます。ご家族様等と密に連絡し、ご要望を連絡していただけるようお願いしており、出来る限り対応するようにしております。		

グループホームガーデンコート稲毛園生(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の回転寿司やレストランに出かけています。また、あんしんケアセンターからの紹介された地域交流のイベントにも参加するように心がけています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ガーデンコートの事務方が主に、提携医療機関と連携を図っております。施設の提携医療機関もご紹介いたしますが、ご本人がご希望される病院にかかっている方もいます。	提携医療機関の往診を受け必要な医療を受けられる体制を築いている。さらに平日はほぼ毎日担当医が来訪しているので安心である。医療機関とは24時間連絡が取れる体制にあり、急変時にも迅速な対応が図れる体制である。そのほか訪問歯科、訪問マッサージもある。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ガーデンコートの事務方が主に、提携医療機関の看護職と連絡を取り、日常の健康管理や医療活用の支援をしています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お客様の主治医、各病院のソーシャルワーカー(市内及び近隣の病院)との関係を密接にしています。お客様が入院の際には、入院先の医師・病棟看護師に直接情報提供を行い、安心して過せるような支援を行っております。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約時に左記の説明を行っており、ご本人様の希望、ご家族様の希望を出来得る限りかなえたいため、提携医療等とも連携を密にとっております。	重度化や終末期に向けた方針に関しては、利用契約時の早い段階から事業所のできることを説明している。ホームで生活していく中で重度化が見られる場合は、家族、主治医を交え、今後の支援方針を検討することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時対応の研修を行っています。また、フローチャートを作成し、管理者、提携医療、ご家族の判断を確認する旨徹底しております。また、マニュアルを作成し、ファイリングして事務所に保管してあります。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練、消防訓練は年度研修計画にて予定しております。所轄消防署よりAED講習等の研修も実施しました。避難訓練もおこなっています。館内にはスプリンクラーが配備されており、外部機関、消防署による定期的な点検も受けております。	消防署の協力を得て夜間の火災を想定した通報、消火、避難訓練を実施している。また災害に備え、ホーム内に米、スポーツドリンク、レトルト食品、調味料をストックし、災害備蓄品として活用できるようにしている。	今後に向けては近隣住民の協力体制の確保のほか、災害備蓄品についても必要なものは何か今一度全体で確認し、組織として保管体制が確立できると良いであろう。

グループホームガーデンコート稲毛園生(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「お客様の尊厳を守る」声かけ、対応を心掛けるよう、日々スタッフと意志の共有をしています。また、各ご利用者様の歴史を知ることにより、尊敬の念を持ってもらえるよう、個人ファイルの熟読を勧めています。	内部研修により「接遇マナー・プライバシーの保護」を実施し、利用者に対して適切な対応が図れるように努めている。また日頃から管理者やユニットリーダーを中心に不適切な表現を使用しないよう注意を促して指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	押しつけの介護ではなく、ご本人様に選択、決定していただけるような声掛けを行っています。また、自己決定が難しい方に関しては、ご家族様のご協力をたまわるなど、施設の意向を優先させることのないよう気を付けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様が入所される前に暮らしていた普通の暮らしをホーム内でも実現できるよう、「見守り」を重視し、「待つ」ことのできるケアを方針として打ち出しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理容を定期的に予約しご利用頂いております。ご自分で整容をされる方はご自身の意志にお任せし、行為自体に障害が伴う方は介助にて行なっております。あくまでもご本人の意向を優先することを徹底しております。中にはご家族様が髪を切りにきている時もあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	性別に関係なく、お食事作り、後片付けなどの生活行為全般に参加をいただいております。	食材は業者から届くが、毎月定例で宅配の食材を止めて利用者の意向をメニューに反映し、買い物から食事作りまで利用者が関わる事ができるように取り組んでいる。また定期的に外食やバイキング形式を取り入れ食事の楽しみにつなげている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期のお茶の時間以外にも、お客様の要望に応じて提供を行っております。水分制限のある方、とろみを利用する方などもいるため、ご利用者様全員の状態に合わせて提供し、一日の摂水量をチェックしております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。また、訪問歯科を利用されている方もいます。		

グループホームガーデンコート稲毛園生(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の申し送りで、排泄の状態報告をするようにしており、その状態に応じて、より自立の方向に向かえるようなプランを立て、徹底しております。また、その人個人の排泄パターンを把握することにより、的確な時間に、こちらからお声掛けをするようにしております。	利用者一人ひとりの排泄状況を排泄チェック表に記録し、職員間で把握している。排泄の介助では一人ひとりの排泄パターンや習慣を活かして、定時の声かけや誘導によりトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給(1日に1000~1500cc摂取)の目安を表示し、情報を共有し、実施しております。積極的な体を動かしていただけるように散歩への参加を促しております。定期的に乳酸菌飲料の提供を考えております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	基本ガイドラインは設定していますが、その日ごとにお客様にお伺いをし、ご希望に沿った形での入浴を楽しんで頂けるように心掛けています。	入浴は、利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、週2回入浴できるように支援している。入浴中は職員が介助につき安全面に十分配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の休息や入眠パターンを把握し、快適な休息、睡眠をとっていただけるよう努めております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬管理については薬剤師に管理を行なってもらっています。各ご利用者様の処方薬につきましては薬局からの説明書面を事務所内にファイリングをして閲覧できる場所に配置しております。誤薬防止の対応は、記入帳票等を活用し誤薬等が起らないよう日々注意喚起しております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の作業を職員と共にしていただけるように働きかけております。各お客様の嗜好に合わせています。例えばコーヒー好きのお客様は、喫茶店へスタッフとお出かけされ楽しんで頂いております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日散歩へのご参加の声がけをし、お客様のご要望を聞き、外出する機会を増やしております。ご家族様のご希望に添い、外食をしに近隣のレストランへ出かけたたりしております。また、月1度のイベントでは、外出支援を多くする様にしています。	一人ひとりのその日の希望にそって日常的には事業所周辺の散歩や買い物する機会を設けているほか、外食、ドライブも定期的実施している。また家族と一緒に外泊や観光名所に外出する等、家族の協力を得て外出できるよう支援している。	

グループホームガーデンコート稲毛園生(1階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を自己管理することが、その人の生活の重要な部分を占めている方に関しては、計画作成担当者がご本人様の状況に鑑み、場合によってはご自身で所持いただいております。その他自己管理が難しい方に関しては、お小遣いとして当施設にてお預かりをし、ご本人様が使いたいとき		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人のご希望通りに、事務所内電話をご使用いただけます。手紙もご要望があればお出しいただけます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にその季節に沿った飾り付けをしたり、お客様の描いたぬりえを掲示したり、行事の写真を貼ったりし、居ながらにして季節を感じさせてくれる空間演出をしております。また、食堂のテーブルにスタッフやご家族様がお持ちになられた花等を飾るなどしています。	共用の空間は、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激がないように配慮し、行事や季節に合わせて装飾を工夫し、生活感や季節感を採り入れ居心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席配置を考えたり、ソファを設置することにより、お好きな方同士でくつろいでいただけるようにしています。また、居室で休みたい方には、ご要望通り、居室で休んで頂いています。出来る限り、ご希望に沿って過ごして頂いております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居時に、馴染みの物をご入居後も使っていただくようご家族様にお願いしております。その後も必要となるものに関しては、ご本人様、ご家族様に相談をさせていただいております。	居室は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れた家具や好みのものの持ち込みを可能とし、利用者が居心地よく過ごせるように配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内には手すりを設置しており、完全バリアフリーになっております。ご利用者様の安全を確保しながら、残存機能を有効利用し、自立した生活が送れるようになっております。また、常に各個人の状態把握を行い、理解できること、出来ることを率先してしていただけるよう努めております。		